

CSVコミットメント

CSV
ストーリー※

キリングroupは、
「健康」「地域社会」「環境」という
3つの社会課題に取り組み、
お客様と共に幸せな未来を
めざしていきます。

※ CSVストーリーの全文は、当社Webサイトをご覧ください。



「私たちのCSVストーリー」

<http://www.kirinholdings.co.jp/csv/materiality/story.html>



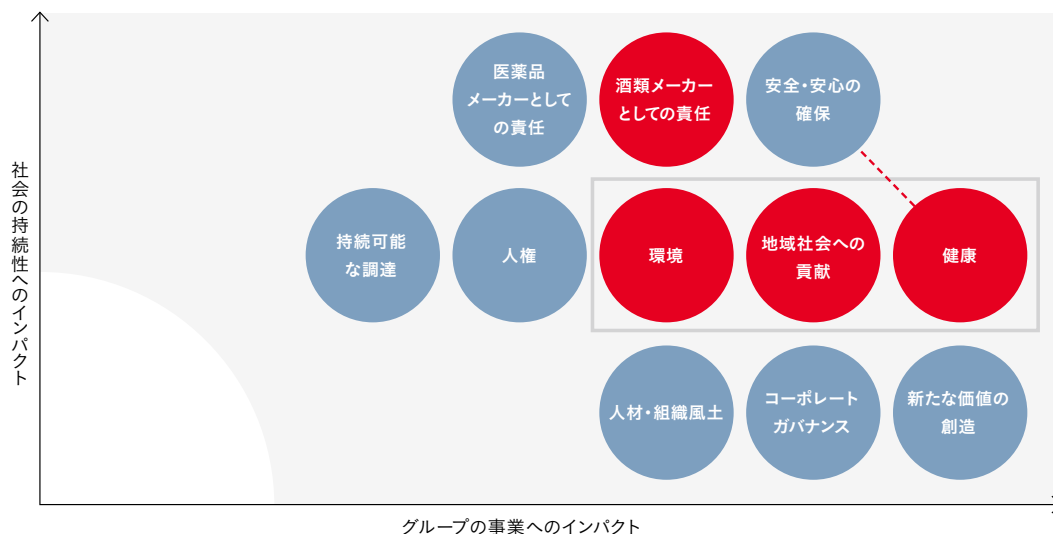
キリンググループは、社会とともに持続的に成長していくため、長期経営構想「新・キリン・グループ・ビジョン2021」において、CSVを経営の根幹に位置付けています。

このたび重点的に取り組む社会課題として「健康」※1「地域社会への貢献」「環境」および酒類を扱う企業グループの前提として「酒類メーカーとしての責任」を選定しました。それらの社会課題について、「持続可能な開発目標」(SDGs※2)等を参照しながら、事業を通じて中長期的に目指す姿を明らかにする17のコミットメント(P.30参照)を策定しました。また、これらのコミットメントの達成に向けた具体的なアプローチおよび成果指標を定めました。私たちは、グループ一丸でこのコミットメントに取り組むことにより、お客様の幸せな未来に貢献することを目指します。

※1 「食の安全・安心の確保」については、「健康」価値を飲料を通じて提供するにあたり、重点課題の一つとして「健康」の中で取り扱います。

※2 世界の持続可能な発展を実現するために、2016年から2030年までの15年間で国際社会が取り組むべき課題を定めたもので、2015年9月に国連サミットで採択されています。

持続的成長のための経営諸課題（グループ・マテリアリティ・マトリックス）



コミットメント策定にあたって

2016年6月に開催されたグループCSV委員会※1において、委員長であるキリンホールディングス社長および主要会社の社長がグループとして取り組むべき社会課題について議論し、最重点に取り組む課題を決めました。その後、事業会社および関連部門等と議論を重ねて、CSVストーリーおよびコミットメントが完成しました。策定にあたっては、社会の視点を取り入れるためにグローバルのガイドライン等を参考にだけでなく、外部有識者とグループCSV担当役員等によるダイアログを開催し、いただいたご意見もコミットメントに反映しました。

※1 キリンググループがCSVを積極的・自主的に推進していくために、原則、年に一度キリンホールディングス社長が委員長となり、開催。

いただいたご意見の一部

【アルコール関連問題】今までの取り組みの有効性評価が重要。患者さんや医師とも対話し、課題と向き合った対策・啓発プログラムにしてほしい。

【健康】世界共通の課題である医療費の増大に対するチャレンジとして、よい取り組みだと思う。

【地域社会】日本のホップとワインは自社製品向け調達だけでなく、観光など地方創生の観点から持続可能なビジネスとして盛り上げていってほしい。

(有識者)

株式会社大和総研 調査本部 主席研究員 河口真理子氏

IIHIOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 川北秀人氏

(社内)

キリンホールディングス 常務執行役員 CSV戦略担当 橋本誠一

キリン(株) 執行役員 CSV推進部長 林田昌也

キリンホールディングス グループCSV推進室長 森田裕之 (2016年12月現在)



CSVコミットメント

キリングループは、中長期的に17のコミットメントに取り組めます。

コミットメント達成のための具体的なアプローチや成果指標は当社Webサイトをご参照ください。



「私たちのCSVコミットメント」

<http://www.kirinholdings.co.jp/csv/materiality/commitment.html>

CSV重点課題	項目	SDGs	コミットメント
酒類メーカーとしての責任	適正飲酒啓発と豊かなアルコール文化の醸成		▶ 地域の課題に応じて、アルコールの有害な摂取の根絶に向けて取り組みます。 ▶ 酒類のカテゴリーごとに、ノンアルコール・低アルコール商品の開発や認知向上に努めます。
	健康・未病領域におけるセルフケア支援	 	▶ お客様の食生活を支えるバランスの取れた商品ラインアップや情報の提供を通じて、栄養やカロリーの日常的なコントロールを支援し、肥満など生活習慣病への対処に貢献します。 ▶ 生涯にわたるクオリティ・オブ・ライフの向上に寄与する、革新性のある商品・サービスや、新規事業の創造にチャレンジします。
	治療領域の進化		▶ 画期的な新薬を継続的に創出し、開発・販売をグローバルに展開していきます。(協和発酵キリン) ▶ 安価で高品質なバイオシミラーおよびオーソライズドジェネリックを提供し、バイオ医薬品のさらなる普及と世界的課題である医療費の抑制に貢献します。(協和発酵キリン)
	健康経営の実現		▶ お客様へ健康をお届けする企業として、従業員が積極的に健康づくりを行う環境・機会をつくっていきます。 ▶ メンタルヘルスや生活習慣病予防に取り組むとともに、酒類メーカーとして従業員の適正飲酒が社会の手本となるよう取り組みます。
	食の安全・安心の確保		▶ 国際標準による製造プロセスの衛生管理*体制を確立し、安全性の向上を図ります。また、品質に関するコミュニケーションを充実させ、お客様の安心感と信頼感の向上につなげていきます。 ※ HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point)
地域社会への貢献	サプライチェーンの持続可能性強化		▶ 日本産ホップの品質向上と安定調達に取り組み、日本産ホップならではの特徴あるビールづくりを行うとともに、生産地域の活性化に寄与します。(キリンビール) ▶ レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援をはじめ、スリランカの紅茶農園を長期的に支援し、認証茶葉の使用を拡大していきます。(キリンビバレッジ) ▶ 世界に認められる日本ワインの発展を牽引し、ワインづくり、ブドウづくりを支える産地・地域の活性化に貢献します。(メルシャン) ▶ 酪農家との持続可能なパートナーシップを発展させることで、酪農家とメーカー双方の持続的な収益と、サプライチェーンを通じた価値創造を実現します。(ライオン)
	事業活動を通じた地域活性化		▶ 各地の事業所が中心になって地域のお客様と一緒に、地域が元気になる商品やサービスを展開します。 ▶ 小口配送を担う地域住民の起業を支援し、地域経済の向上に寄与します。(ブラジルキリン)
環境	環境活動の事業戦略への反映		▶ 再生可能エネルギーの導入をはじめとした更なる温室効果ガス (GHG) 排出量削減の取り組みを進めます。
			▶ 生産活動における水使用量を削減するとともに、水源地の保全活動を継続的にを行います。
			▶ 原料生産地と事業地域における自然環境を守り、生態系を保全します。
			▶ 容器包装の軽量化を継続するとともに、材料の非再生資源依存を低減し、持続性を高めます。

コミットメント紹介 (一部)



健康

「健康・未病領域におけるセルフケア支援」

コミットメント

お客様の食生活を支えるバランスの取れた商品ラインアップや情報の提供を通じて、栄養やカロリーの日常的なコントロールを支援し、肥満など生活習慣病への対処に貢献します。

アプローチ

安全性はもちろん、味に妥協することなく、最適なカロリー・栄養の飲料・食品を、バランスの取れたラインアップで提供していきます。地域ごとの健康課題に応じ、各事業において以下の取り組みを選択的に行います。

- ① 添加糖類・塩分および脂肪分の削減
- ② 低糖・無糖・カロリーオフ等の商品の開発・拡充
- ③ 小容量容器の選択肢拡大
- ④ よりわかりやすい栄養成分情報の提供
- ⑤ バランスの取れた食事と生活の実現に向けたお客様への啓発・アドバイス
- ⑥ お客様に最適な商品ポートフォリオを提供するための研究開発

成果指標

今後、アプローチに対応した具体的な成果指標を策定

取り組み事例

生活習慣病の予防は、喫緊の世界的な課題です。お客様のセルフケアを支援する商品ポートフォリオは、この課題解決に貢献すると同時に、事業のリスク耐性を高めます。豪州・ニュージーランドで乳製品・果汁飲料事業を展開するライオンでは、食卓の栄養バランス改善や子どもの肥満減少に貢献すべく「Our Goodness Promise」を2014年から展開。毎日摂取しても健康的な生活を送ることができる商品構成比の増加や、添加物の削減に取り組んでいます。2019年までの到達目標に向けて順調に進捗しており、お客様のライフスタイル改善と事業の価値向上に寄与しています。



地域社会への貢献

「サプライチェーンの持続可能性強化」

コミットメント

日本産ホップの品質向上と安定調達に取り組み、日本産ホップならではの特徴あるビールづくりを行うとともに、生産地域の活性化に寄与します。(麒麟ビール)

アプローチ

- ① 長期的な視点に立ち、日本産ホップの育種開発やホップ生産地域の魅力を高める取り組みを支援し、新規就農者を増やすなど、ホップ農家の高齢化や担い手不足を解消し、安定的な収穫量の維持と品質向上を実現します。
- ② 日本産ホップの特徴を活かした個性的なビールを開発して高い評価をいただくことで、日本産ホップの価値を高め、世界のクラフトビールづくりにおいても活用される姿を目指します。

成果指標

- ① 日本産ホップの収穫数量減少の歯止め・日本産ホップを使った個性的な商品の開発
- ② 日本産ホップが評価され、キリンググループに限らず世界で日本産ホップが使用される
- ③ その他、地域と麒麟との協働について、取り組み実績を併せて開示

取り組み事例

ホップはビールに様々な個性を与えます。しかし、日本産ホップは生産者の高齢化等に伴い年々収穫が減少しています。国内のホップ農家と長期的な関係を築き、品質向上に取り組むとともに、生産地域の皆様とともに地域の活性化に取り組めます。それにより、収穫したばかりのホップを使った「一番搾り」とれたてホップ生ビール」や、摘みたての日本産ホップ「IBUKI」を手を加えずそのまま使用したクラフトビールなど、日本産ホップでなければできない特徴的で高品質なビールづくりを継続・拡大していきます。同時に個性的な日本産ホップを世界に発信していきます。



環境

「環境活動の事業戦略への反映」

コミットメント

容器包装の軽量化を継続するとともに、材料の非再生資源依存を低減し、持続性を高めます。

アプローチ

- ① 容器への再生素材および持続可能な素材の利用を拡大します。(再生PET・植物性樹脂・FSC認証紙など)
- ② 製品や容器の開発の早期段階での容器材料選定と同様に容器のライフサイクル評価(LCA)を導入します。(ライオン)

成果指標

- ① ボトルtoボトルの維持・拡大
- ② 植物性樹脂の使用検討・推進
- ③ FSC認証紙使用紙容器(1次/2次容器)の使用維持・拡大
- ④ 2030年までに容器材料のリサイクル性を90%以上に向上(ライオン)
- ⑤ 2030年までに容器包装資材のリサイクル材料比率を50%以上に向上(ライオン)
- ⑥ 2017年にジュース用の軽量PETボトルを開発(ブラジル麒麟)

取り組み事例

キリンググループは6缶バック板紙、ギフト箱、紙パック、製品用段ボールなど1次/2次容器包装で多くの紙を使っています。

2017年2月に「持続可能な生物資源利用行動計画」を改定し、国内総合飲料事業で使用する全ての紙製の容器包装で、2020年末までにFSC認証紙への切替を目指すことにしました。この取り組みは、「キリンググループ長期環境ビジョン」の4つの重点テーマ中、「生物資源」と「容器包装」に該当し、容器包装の材料の持続可能性を高めることで、持続的な生物資源活用、容器包装の使用を実現するための取り組みです。